

# 平成28年度 自己評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 下福島学園 下福島幼稚園

## 1. 本園の教育目標

快適で安全な教育環境を保障し、幼児の心身の育ちを大切に考えながら、遊びを中心とした教育内容の充実と実践を目指している。また、幼児が幼稚園という集団生活の場で友達と十分に遊ぶことにより、自他の存在に気付き、道徳性・社会性・創造力・助け合いの心と自立する心を身につけて、生きる喜びを味わい、生きる力を培っていきけるように配慮する。日常保育の中では基本的に、よくみる・よくきく・よく考える・よく手足を動かすことを徹底し、明るくよく遊ぶ子・興味を持ち集中出来る子・絵本の大好きな子・優しく助け合う子の育成をすることを教育目標とする。

## 2. 平成28年度 重点的に取り組む目標と計画

平成27年度に次年度取り上げるべき研究テーマを子ども達の体力増強・食育指導・新制度の研究としたが、本年度の重点的に取り組むべきメインテーマとして「食育と教育」とした。本園では3歳児2クラス・4歳児2クラス・5歳児2クラス編成をして3年間の教育課程を踏まえながら学園ごとの指導計画を立案し、質の高い教育を目指して実践している。3カ年の教育課程を教職員が共通理解をする為の情報交換の話し合いを常に重ねながら、より深い教育実践をしていくことに努力している。通常学年2クラスの担任やサポート教職員が子ども達一人ひとりの成長発達の様子をしっかり捉えて援助をしているが、学年間だけの教育・保育では養えない心の成長や生きる力・生き抜く力を養うには、縦割り保育の重要性に着目して、毎年目標や「テーマ」を設定し、永年3学年を解体した縦割り3チームに編成をし、また、教職員も縦割り3チームを組んで毎週1回午前中に縦割り保育を永年実施している。本年度の縦割り保育では「食育」を取り上げた。そして、保護者にも本園の教育活動を理解してもらい、子ども達の学びの跡を実感してもらう為に、3学期に保護者も交えたペアエンジョイDAYで3チーム別発表を目指すこととした。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育課程を踏まえた食育教育が、子どもの姿に応じた指導援助になっているかの評価を行う。	1学期から教職員間で3チームの子ども達のメンバー構成と各チームの活動内容を討議し決定を行った。そして、3チーム別々の活動と指導実践ではあるが、子ども達が自分の身体をよく知り、食物を体内に取り入れることでどのような働きによって自分の身体と生命が維持されているのか、食物にはどのような種類や効能があるのか、何故バランスよく食べないといけないのか...、様々な学びに繋がる様に配慮して援助をすることを申し合わせた。食物の種類・生産・流通・摂取・効能等を知る為に子ども達と共に図鑑や絵本で調べたり、実際の食物を観察して擬似食物を制作し、制作物を用いた劇遊び・オペレッタに発展させていく指導計画を立案した。また別のチームでは、自分の体内がどのような様になっているのかの疑問から、口から取り入れられた食物はどのような様になって排泄されるのか、排泄に至るまでに関わる人体の臓器の働きを調べたり、調べた人体の自分大の模型を共同制作することにして、体内の臓器配置等の模型を完成させた。例えば食道や胃はどういう形で何処にあるのか、小腸や大腸の形や位置、腸の長さがどれくらいあるのか、大人と小人との違いや実際に長い小腸を作ったりしてみた。全ての子ども達が幼児期からの食育に関心を持つように知識だけに終わらない指導と援助を行い、3チームの発表を通して、別々の活動をしていても全ての活動内容が繋がって、最終的にどの子どもも年齢に応じた食育に対しての関心を持ち理解を深めるように留意しながら、教職員が常に着地点を何処に設定するのかの討議と評価を繰り返しながら指導を重ねた。

縦割り保育について教職員間で連携して協議検討する。	平成27年度までの縦割り保育は、音楽・体育・絵画の3チーム制で園児も教員も縦の関係で組み、教員は担任やサポート教諭という位置づけでなく、毎週指導者になって全園児に接してそれぞれのチーム指導計画に基づいて年間指導を行ってきた。そして、二学期の運動会や発表会・あるいは縦割り保育発表等でチーム毎の発表をし、取り組みを保護者に披露する。園児は毎週チームを変わって教職員全員から指導と援助を受け、担任やサポート教諭とは違う教諭に接し、教員間では一人ひとりの育ちについて気になる点や伸ばす点について教員間で意見交換をして、クラスだけしてみる園児の姿とは違う姿を知って、育ちについて総合的な見取りを行ってきた。しかし、本年度は形態を変え、どのチームもテーマを「食育」とし、3チームが別々の活動内容と指導によりつつ、3チームの内容に繋がりがあって、最終的に子ども達と保護者に食育に関心を持ってもらい、日々の生活に生きる食育教育になるように教職員間で協議検討を行った。
---------------------------	--

#### 4 . 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>幼稚園は、学校教育という視点から、子ども・保護者・教職員が繋がりがあって子どもの成長発達に順調に遂げられるように教育展開をする場である。そして、保護者と教職員は絶えず子どもと共にあり、子どもに関する情報を共有しながらも子どもを通して保護者も教職員も学び合っていく存在であらねばならない。家庭教育と幼稚園教育がより良く結び合うところに子どもの安定的な成長が見込まれることを認識し、互いの信頼関係の構築に努める為に、幼稚園としては、保護者に日頃の教育活動と園生活をしている子ども達の様子を正しく理解してもらう場の設定をする必要がある。家庭訪問や送迎時のコミュニケーションは、とても重要であり、また、園便りや園長からの便りも保護者にとっても幼稚園にとっても重要な相互理解の手立てである。学校教育である幼稚園としては、保育参加や保育参観・懇談会を通じて活動報告を行うが、本園では、給食と弁当参観・夏の夕涼み会・運動会・発表会・ペアエンジョイ等も重要な報告の機会である。本年度の食育教育の目標や指導の展開状況については、保護者に継続的に知らせ、ペアエンジョイDAYでは、まとまった形で報告することを目指した。運動会や発表会での発表体験をもとにダンス・合奏・歌・せりふ等を取り混ぜ、制作物も用いての劇遊びやオペレッタによる3チームの発表を見ると、1年を通じて縦割りで行い取り組んできた活動の展開が非常によく理解でき、保護者や学校評価委員から学びがあったとの感想と家庭における食育教育の参考になったという評価が得られた。時間をかけつつ子ども達との活動の中から最終的な着地点が見えてきたようだが、発表は相当見ごたえのあるものに仕上がった。また、保護者会で年2回発行している新聞「しもふくしま」でも、食育というテーマを意識した記事内容になっており、幼稚園と保護者との連携で年間食育教育の学びになったと高く評価が出来る。本年度の縦割り保育は従来の形を一步進めた形になり、次年度も教職員で研究テーマを絞り込んで更なる教育の連続性と質の向上を目指したい。</p>
--

#### 5 . 今後（平成29年度）取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
園児の心身の現況を踏まえて、保護者と共に望ましい成長発達を考える。	本園は創立以来、私立幼稚園でも公教育を担い、地域の要望によって成り立ち、質の高い教育実践を行っていることが、評価されてきた。通園スタイルは、今日まで徒歩での登降園で、全員が始業・降園時間を同じにして教育・保育を受けることを貫いてきた。一時期園児減少で経営に影響が出るのではという状況もあり、通園バスの導入により通園範囲の拡大をはかり、多くの園児が入園できるようにと大阪府からもアドバイスを受けたが、やはり子どもの心身の成長発達において徒歩通園が重要なポイントであることを譲らずにきた。毎日保護者が当番制で子ども達を見守り、集団での徒歩通園は、心の成長と身体の体力増強の両面からとてもよい効果が得られた。しかし、30年程前から社会の変化に伴う交通量の拡大や子どもを巻き込む凶悪犯罪が連続して発生したこともあって、集団で園児を守ることが困難になった。また、保護者の意識が変化したことも大きく、通園スタイルを集団通園でなく保護者が我が

	<p>子を責任もって登降園させる個人通園に変更した。当初は親子が手を繋ぎ理想的な通園の姿が多く見られたが、本園の教育を評価して入園を希望する家庭が、幼稚園周辺の限られた地域だけでなく少し広範囲になって徒歩では時間がかかり過ぎる事等を理由に自転車通園することが増えてきた。徒歩通園の効能を知らせてはいるものの母親の就業もあつたりして、近年では自転車通園が普通になっている。周辺への配慮や子どもの心身の発達の妨げになると説明し、保護者の意識変化を期待するが、現状は改善していない。昨年度に引き続き「ルンルンウォーキングDAY」を継続し、毎日徒歩で幼稚園に通うことと歩く生活が体力増強に繋がって幼児の成長発達に大きく影響すると啓発活動を実施している。しかし、保護者には子ども達の体力や精神力の減退に切迫感がない。子ども達の将来を考えると、社会はますます複雑になり、自然災害もいつあるかわからない。体力がないと生き抜いていけない。また、思考力にも身体の健康が大きく影響することをしっかり保護者に伝達して、保護者会等と協力して保護者の意識改革を促す方策を考えて、子ども達の体力増強を図りたい。</p>
<p>子ども・子育て支援の新しい取り組みについての理解。</p>	<p>平成27年度から子ども・子育ての新制度がスタートし、2年目となった。本制度についての研修にも積極的に参加し情報収集に努め、本園で移行するや否やについての決定をしていかなばならないことを役員会で議案に挙げ、園児・保護者・教職員・幼稚園にとって最良の判断をして、平成28年度は移行せず、平成29年度についても慎重にすすめるとの説明会を実施した。社会でこの制度についての検証がなされることだが、今後の判断の決定要因になるが、まだその検証がされていないことと本園の教育理念や指導方針、及び教職員の確保と教育力の維持等が困難であることから何処でどちらを選択するか難しい問題である。園児・保護者・教職員の混乱を招かない様に、永年の幼児教育実践の実績と本園に対する社会的な期待等をしっかり見据えて最良の決定をし、子どもと保護者への真の支援の在り方は模索することを引き続き継続努力することとなった。</p>

## 6 . 学校関係者の評価

<p>学校関係者からは、毎年教職員の幼児教育実践を高く評価する声があるが、本年度は特にメインテーマとして「食育」に取り組んで、その活動の展開と熱心な研鑽と質の高い教育指導が、園児達の楽しい園生活に繋がったと評価された。家庭訪問や日々の登降園時に保護者と教職員のコミュニケーションをしっかりとっていく仕組みが整っている為に、幼稚園と家庭との連携が出来ており、本年度も教育・保育実践が概ね良好で、保護者から教職員への信頼度が一層増して、関係性が良好である。また、懇談会や保育参加及び学期ごとの保育の自己点検報告を重視し、丁寧に保護者に説明することによって幼稚園の取り組みやあり方と一人ひとりの園児に対しての指導の在り方が明確に伝わり、保護者の安心に繋がった。引き続き子どもを真ん中にして保護者（保護者会）と幼稚園が連携を深め、3者が学び合いが出来る体制の強化と継続を期待する意見が寄せられた。</p>
--

## 7 . 財務状況

<p>平成28年度の財務状況は、公認会計士監査からの証憑伝票等の会計書類が適正に処理されているとの評価を学園役員会に報告し、役員会では監事及び理事長から園児が増加したことに加え経費節約に努め、借入金をしなかったことが安定経営に繋がっているとの説明を踏まえて評価された。</p>
--